



あいち防災キャラクター
防災ナマズン

あいち防災通信

第9号

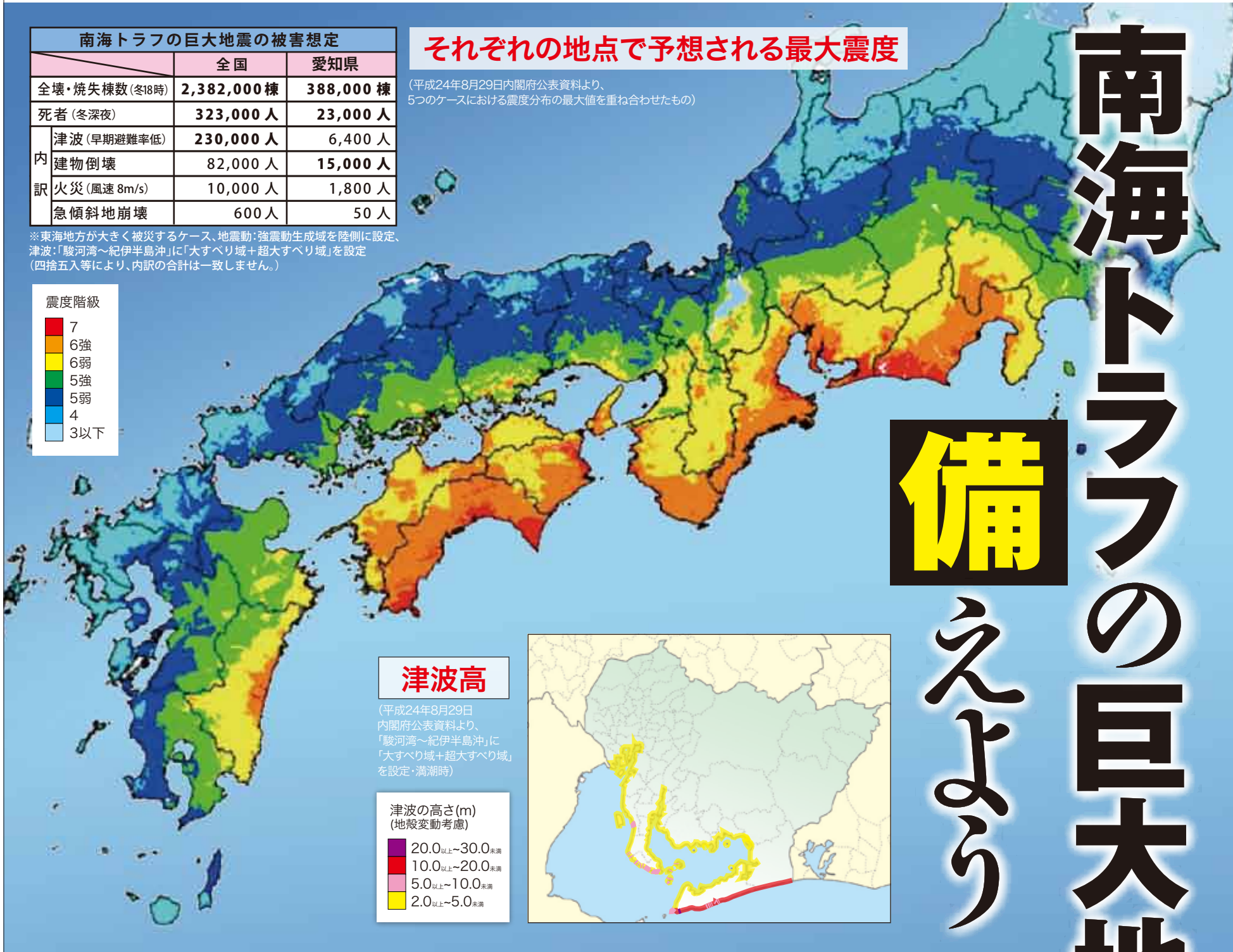
●発行●
愛知県・あいち防災協働社会推進協議会

南海トラフの巨大地震の被害想定		
	全国	愛知県
全壊・焼失棟数(冬18時)	2,382,000棟	388,000棟
死者(冬深夜)	323,000人	23,000人
内訳	津波(早期避難率低)	230,000人
	建物倒壊	82,000人
	火災(風速8m/s)	10,000人
	急傾斜地崩壊	600人
		愛知県
		6,400人
		15,000人
		1,800人
		50人

※東海地方が大きく被災するケース。地震動・強震動生成域を陸側に設定、津波:「駿河湾～紀伊半島沖」に「大すべり域+超大すべり域」を設定(四捨五入等により、内訳の合計は一致しません。)

それぞれの地点で予想される最大震度

(平成24年8月29日内閣府公表資料より、5つのケースにおける震度分布の最大値を重ね合わせたもの)



震度階級

- 7
- 6強
- 6弱
- 5強
- 5弱
- 4
- 3以下

津波高

(平成24年8月29日内閣府公表資料より、「駿河湾～紀伊半島沖」に「大すべり域+超大すべり域」を設定・満潮時)

津波の高さ(m)
(地殻変動考慮)

- 20.0以上～30.0未満
- 10.0以上～20.0未満
- 5.0以上～10.0未満
- 2.0以上～5.0未満



南海トラフの巨大地震に

備えよう

南海トラフの巨大地震の被害想定

南海トラフを震源とするマグニチュード9クラスの巨大地震について、内閣府が平成24年8月29日に被害想定を公表しました。

全国では、建物が倒壊することにより8万2000人、太平洋沿岸を襲う最大34メートルの津波により23万人が、亡くなるのが想定されています。これに火災や急傾斜地崩壊による死者数を加えると、最大で、明治以降最も死者数が多かった関東大震災の約3倍に及ぶ32万3000人もの死者が出るのが想定されます。

さらに、広い地域で震度6弱から震度7の強い揺れが予想されることから最大で約238万2000棟が全壊・焼失すると推定され、東海地方から九州までの広い範囲で甚大な被害が出る恐れがあるとされています。

愛知県の想定被害

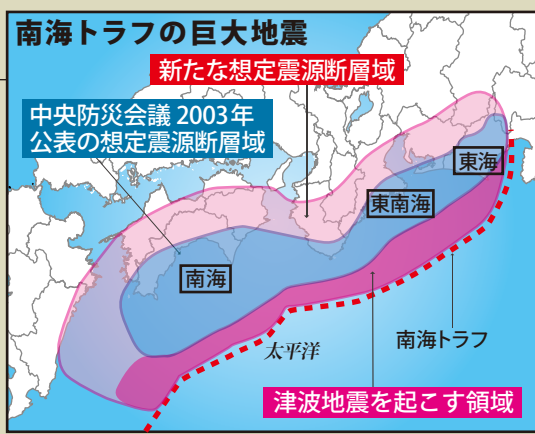
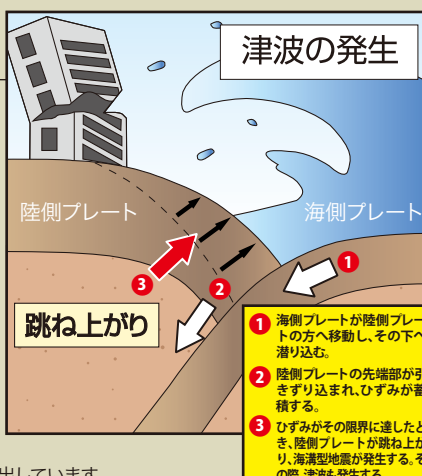
この被害想定において、何種類かある試算の中の最大ケースで愛知県内での死者数は2万3000人、うち建物倒壊による死者数が1万5000人、最大の建物全壊・焼失棟数は3.8万8000棟に上ります。このように、本県の特徴としては強い揺れや液状化による建物の倒壊が顕著で、建物の倒壊による死者数が全国で最大となっていることです。震度は県内どの地域でも6弱以上になる可能性があり、23の市町村で震度7が想定されるなど、甚大な被害が出るのが予想されます。一方、津波による被害も死者数6400人と大きなものとなっています。

南海トラフの巨大地震とは

トラフとは、深さ6,000mまでの海底のくぼみを意味します。(深さ6,000m以上は海溝と呼ばれます。)太平洋の水深約4,000メートルのくぼみである南海トラフは、海側のフィリピン海プレートが陸側のユーラシアプレートの下に潜り込む場所であり、静岡県の駿河湾から九州にかけて伸びています。この南海トラフ沿いでは、過去にマグニチュード8クラスの東海地震、東南海地震、南海地震が概ね100～150年おきに繰り返し起きており、平成24年1月1日を基準に今後30年以内の発生確率は南海地震60%、東南海地震70%、東海地震88%(参考値※)とされています。

この3つの地震の震源域を中心に広大な範囲が連動して発生する地震を南海トラフの巨大地震といいます。

※東海地震が単独で発生した事例は知られていないため、過去の連動した地震に基づき、参考値を算出しています。



8月29日に公表された被害想定における南海トラフの巨大地震の想定震源断層域